エチオピアから森が消える!? フェアトレード・コーヒーで森を守る!

～アフリカ、エチオピアとルワンダへ行ってきました。その3～

企画・制作／中日新聞広告局

フェアトレード推進活動やエシカル・コーディネーターの活動をしていることから日本の政府開発援助（ODA）実施機関である国際協力機構（JICA）の国内機関「JICA中部なごや地球ひろば」のオフィシャル・サポーターに任命され、広報活動をサポートしている原田さとみさん。その活動の一環でこの夏、アフリカのエチオピアとルワンダへ派遣され、途上国の現状やJICAのプロジェクトや青年海外協力隊員の活動を視察。アフリカ渡航記3回目は、森林が国土の2%にまで減少してしまったエチオピアの森を守るお話です。

高地エチオピアはカラッとさわやか…しかし空気薄く、高山病に

アフリカ大陸の東に位置するエチオピアは、国土の3分の2が海抜2千m以上の高地です。赤道に近い国なのに、暑いどころか高原の避暑地にいるようなさわやかさで「気分爽快」と最初は良かったのですが、空気が薄いので疲れやすいうえ、眠りが浅く熟睡ができないとのこと。現地で働く赴任者の皆さんは、慣れるまでは体調を崩す方も多いとか。

特に旅行者は、「決して無理をしないように」と釘をさされていたのですが、食あたりと虫刺されにさえ気をつけていれば大丈夫と、即活動を開始。日本の3倍の面積という広いエチオピア国内に点在するJICAの活動を少しでもたくさん視察するために、私たちは朝から夜まで、標高が上がったり下がったりする各地を転々と移動することに。高地を甘く見た結果、私は軽い高山病にかかり発熱しダウン。大量の水分を補給して半日休んだらすぐに回復し、大したことはなかったのですが、高地恐るべし、異国の洗礼を受けました。

そんな私には厳しい国でしたが、涼しく湿気が少なく過ごしやすい気候と、近年の経済発展により、人口は増え続けています。

森林コーヒー栽培で、森を守り、住民の暮らしも守る

そこで残された貴重な森林を守るため、JICAはベレテ・ゲラ森林地区で住民参加型の技術協力プロジェクトを実施。ベレテ・ゲラの森へ行き、西村勉JICA専門家にお会いしました。

西村さんは、木を切らずに森を保護しながらも住民の生計向上になる方法を模索し、コーヒー豆に着眼。エチオピアはコーヒー発祥の地。この地域の「カファ」という地名がCoffeeの語源といわれます。風土や気候もコーヒー栽培に適しており、森にはコーヒーの樹が自生。農薬や化学肥料を使わずに、自然のままにさまざまな植物と連鎖しあう生物多様性の森の木陰で育つ天然のコーヒー。薫り高く味わい深いコーヒーの実が収穫できることに気付きました。さらに森林コーヒー（フェアトレード・コーヒー）の認証を受けることで、市場価格に対し25%のプレミアムが付与。住民は「森を守ると生活が良くなる」というメリットを実感。その生豆を地元女性グループが手焙煎したオリジナル・コーヒー豆（＊1）も生産しています。女性たちに働く機会を生み出し収入を得ることで、暮らしが安定してゆきます。

自分たちの森を自分たちの手で自分たちの将来のために

農民学校には、いろんな世代が参加

さらにコーヒー生産のみならず、農業手法を学ぶ農民学校を組織し、住民自らが学び合っています。ベレテ・ゲラ森林15万ヘクタールの中にある大小44の村、125のグループにリーダーが育ち、森林保全の大切さ、種類豊かな作物を育てる方法を学んでいます。

西村さんは住民と丁寧に対話を重ね、どうしたら森を自分たちの手で守りながら持続可能な暮らしが実現できるか、彼らと同じ目線に立って試行錯誤を繰り返し、新しいことを押し付けるのではなく、これまで通りの伝統的なやり方を尊重し、サポートを行ってきました。そんな地道な活動の末、森林を守りながらの生計向上は実現。西村さんのプロジェクトは現在、最終段階を迎えています。

人と人、心をつなぐ美しい伝統エチオピア式コーヒー・セレモニー

エチオピアでは「コーヒー・セレモニー」といって目の前で、「炭火で豆を炒り、木臼で挽き、粉を湯の中に入れ、沸騰したその上澄みをカップに注ぎ客に配る」正真正銘の炒り立てのコーヒーを、暮らしの中で楽しんでいます。

庭先でコーヒーを手に会話を楽しみ、仕事の疲れを癒す。美しい伝統です。乳香とよばれる薫香（樹木から採れる樹脂）もセレモニーに欠かせないもの。その煙の香りで、邪気をはらい、平和を祈り、日々の生活に感謝するのです。スピリチュアリティを大切にしているエチオピアのスローライフ。ゆっくりと流れる時間、人と人をつなぐ時間は、心の豊かさの象徴です。

日本は発展とともに失った文化があります。今後発展してゆくエチオピアからは尊い習慣が失われることのないようにとの願いを込めて……。私たちは日本で「エチオピア式コーヒー・セレモニー」に挑戦します。一緒にアフリカを訪問したラジオDJの空木マイカちゃんと私、原田さとみが、「JICA中部フェアトレード・カレッジ」（＊2）講演後に〝エチオピア式コーヒー・セレモニー〟で皆さまをおもてなし。ベレテ・ゲラ森林フェアトレード・コーヒーをおいしくお入れいたします。お楽しみに。

国土の2%となった森林 なぜ木を切ってはいけないのか?

しかし人口増加で問題が発生。移住した人々は生きてゆくために田畑が必要で、無計画に森林を伐採して耕地を拡大。その結果、エチオピアの自然林は、国土の2%にまで減少。一見するとエチオピアは、緑豊かで牧歌的なのですが、実は森がないのです。「森がない」ということは、地中で雨水を蓄え、ろ過することができず、きれいな水の供給もできません。土壌浸食も起き、山が崩れ、川が乱れ、農民の生活に大きな影響を与えます。生き物たちも減少し生態系が崩れます。森林は暮らしを支える大事な存在です。

しかし食料不足が大きな問題となっているエチオピアでは、その日に食べる食料確保のために目先の田畑耕作へと向かってしまうのは仕方のないこと。貧困にあえぐ人々に「なぜ木を切ってはいけないのか」を理解してもらうことは容易ではないのです。

西村勉JICA専門家と森林プロジェクトの若きリーダーたち、そしてJICA中部オフィシャル・サポーターのラジオDJ空木マイカちゃんとベレテ・ゲラの森にて

Profile 原田 さとみ
（タレント／エシカル・コーディネーター）

モデルデビュー後、タレントとして東海圏を中心に活動。フランス・パリ留学を経て、セレクトショップ経営。5年間の育児休業を経て、お母さんとして、おしゃべり・講演・司会・執筆などの活動が始まり、現在は、倫理的で環境に配慮したエシカル・ファッションの普及活動を中心に、フェアトレード推進にも取り組んでいる。今年フェアトレード&エシカル商品の輸入・販売・推進活動のための「エシカル・ペネロープ株式会社」設立。国際協力機構JICA中部なごや地球ひろばオフィシャル・サポーターとして、毎月第4土曜日に「世界と出会う絵本ひろば"ルププ"」主催。

絵本の読み聞かせの会"ルププ"開催
■12月25日（土）午後2時～3時30分
■JICA中部なごや地球ひろば1F
入場無料

原田さとみブログ
http://satomiharada.com/

原田さとみプロデュース
〝エシカル・ファッションショー&フェアトレード・トークショー〟開催!!
■日時／12月25日（土）17:00～17:50
■場所／名古屋テレビ塔下"NAGOYAアカリナイト"特設ステージ
入場無料

久屋大通公園一帯にLEDイルミネーションが広がる名古屋の夜の祭典「名古屋開府400年記念事業"NAGOYAアカリナイト"～アカリのアカデミー～」にて、エシカル&フェアトレード・ファッションショーとトークを25日夜に開催。迫力ある豪華なシャンデリア・イルミネーションで飾られるテレビ塔の下でのロマンティックなショーをお楽しみください。18時からは「ペチャクチャナイト」開催!

（＊2）JICA中部フェアトレード・カレッジ
■日時／2011年　2月27日（日）14:00～16:30
■会場／JICA中部なごや地球ひろば
「生物多様性とフェアトレード in エチオピア」～コーヒーの原生林を守るJICAの取り組みと"エチオピア式コーヒー・セレモニー"～

原田さとみと空木マイカが訪れた、エチオピアの原生林を守るJICA技術協力プロジェクトをご紹介。現地の住民が原生林の価値を認識し、森と共存する方法をどうやって見つけたのか? プロジェクトを支えた西村勉JICA専門家をお迎えし（予定）、その苦労や成果をお聞きします。さらに、さとみ&マイカがエチオピア式コーヒー・セレモニーで皆さまをおもてなし!
■参加費／500円　■定員／50名（要申込）
■お申し込み／フェアビーンズなごや地球ひろば店
Tel／052-583-6480　E-mail／fairbeans.shop@gmail.com

（＊1）「ワププ・コーヒー」　ベレテ・ゲラの森に自生するコーヒーの実を地域コミュニティーの人々によって手摘み、炭火焼、手焙煎で生産される「レインフォレスト・アライアンス認証」の森林フェアトレード・コーヒー。ワププ・コーヒー「コーヒーセレモニー」220g／1575円の販売は（株）「生活の木」まで。（お問い合わせは03-3409-1781）